

令和5年度 奈良県立榛生昇陽・宇陀高等学校 学校評価総括表(6月末報告)

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	いのちを大切にす心と未来を切り拓く力を育み、自信と誇りをもって地域に貢献する生徒の育成
令和5年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣を確立し、正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め自主的な生活態度を育成する ○ルールを守る心を育て、礼儀やマナーを身に付けさせる 2 基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着により、着実に学力を向上させる ○基礎的知識・技能の習得と定着のため、PDCAサイクルにより、授業に工夫・改善を加える 3 自ら考え主体的に行動できる力を育成し、体験的な活動により協働する意識と態度を育む ○生徒会・各種委員会活動や部活動を活性化させて達成感を獲得させるとともに、協働する意識と態度を育む

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 本校の教育方針を理解する生徒 2 【普通科】 ICTの活用やグループワークなどにより学びを深め、主体的に自らのキャリアを形成できる力を身に付けて、文系大学等への進学を目指す生徒 3 【情報科学科】 プログラミングを楽しみながら学ぶことから、実社会の問題を発見・解決する力や協働して取り組む態度を身に付け、理系大学等への進学を目指す生徒 4 【こども・福祉科】 保育・幼児教育に携わるための基礎的事項の学び、介護福祉士国家試験合格を目指す専門的な学び、介護・医療を含めた福祉全般についての学び、これら3つの学びのうちからいずれかに取り組み、地域の教育や福祉を担う熱意と意欲のある生徒 5 【専攻科】 介護福祉士の国家資格を取得し、専攻科修了後、奈良県内の社会福祉施設等で介護の業務に従事する意思を有している者
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上、基礎学力の定着と応用力の養成、豊かな心の涵養、自己実現への主体的な態度の育成、及び地域社会に貢献する意欲と行動力の育成のために、以下の教育を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学校行事や課外活動を含む学校生活全般を通して、規範意識、人を思いやる姿勢、互いに成長し合える人間関係、及びコミュニケーションを回って協働する力を養います。 2 基礎的・基本的な知識・技能の習得と応用力の養成により、着実に学力を向上させます。 3 キャリア教育を充実させ、ICTの活用やグループ活動を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」を展開します。 4 計画的・個別的なサポートにより、国家資格取得と検定合格に導きます。 5 施設実習、保・幼・こ・小・中を含む学校周辺地域との交流やボランティア活動により、学校での学びを地域社会の問題発見や解決に活用する力を養い、地域社会に貢献する意欲と行動力を育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学校で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を、上級学校での学びに繋げたり、地域社会の問題発見や解決に活用しようとする事ができる。 2 在学中に取得した資格、合格した検定を基に、就職先、進学先においてより専門的技術・知識を習得するために主体的に学び続けることができる。 3 社会の一員として、よりよき社会の実現のために、協働を推進することができる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(G)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	体力の向上	新体力テスト体力合計点の全学年平均48.0(各項目得点6点)以上	新体力テスト体力合計点の全学年平均44.0点以上(各項目得点平均5.5点以上)				
	望ましい運動習慣の確立	1日の運動・スポーツ実施時間30分以上の割合70%以上	1日の運動・スポーツ実施時間30分以上の割合40%以上				
	望ましい食習慣の確立	朝食摂取率95%以上	朝食摂取率85%以上				
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートに対する肯定的な意見が平均90%以上	授業アンケートに対する肯定的な意見が平均85%以上				
	教職員の資質向上	研修講座に参加・活用した教職員の割合90%以上 教員同士の授業公開期間を、年度3回以上設定する。	研修講座に参加・活用した教職員の割合90%以上 教員同士の授業公開期間を、年度3回以上設定する。				
	ICTを活用した教育の推進	教員の授業におけるICT活用研修を年2回以上実施する。 教員のICT機器利用率90%以上	教員の授業におけるICT活用研修を年1回以上実施する。 教員のICT機器利用率75%以上				
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	学校における働き方改革	勤務時間の縮減に努め、健康管理医による面接指導対象者をゼロにする。 先生方の学校満足度調査の肯定的な意見が80%以上	健康管理医による面接指導対象者を昨年度より減少させる。 先生方の学校満足度調査の肯定的な意見が70%以上				
	キャリア教育の推進	SSシートを毎朝記入100%	SSシートを毎朝記入95%				
	進学先、就職先、学科関連施設・機関との連携	特別非常勤講師、社会人講師等、外部講師による「出前授業」を、各学年・学科年度3回以上実施	特別非常勤講師、社会人講師等、外部講師による「出前授業」を、各学年・学科年度2回以上実施 生徒の満足度アンケートを4段階でとり、改善の参考とする。				
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	実習・インターンシップの充実	施設実習・インターンシップへの生徒の高校・専攻科在籍中参加率85%以上	施設実習・インターンシップへの生徒の高校・専攻科在籍中参加率75%以上				
	学校運営協議会の運営	学校運営協議会の年度2回開催	学校運営協議会の年度2回開催				
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	校外学習、修学旅行、及び長期休業中の課題を含めた学びによる「奈良TIME」の学習成果の発表の機会を年間3回以上設ける。専攻科基礎科目「地域の生活」における宇陀の伝統・文化等に関する学習について、外部講師を招いた授業を年間10時間以上行う。	「奈良TIME」の学習成果について発表する機会を年間1回以上設ける。 専攻科基礎科目「地域の生活」における宇陀の伝統・文化に関する学習について、外部講師を招いた授業を年間9時間以上行う。学習の成果を発表する場を設ける。				
	宇陀市-曽爾村・御杖村・宇陀高等学校・奈良県教育委員会・奈良教育大学の包括連携に基づく保育・幼児教育施設、小・中学校との連携	生徒・教員による保育・幼児教育施設、小・中学校との交流を年度3回以上実施	生徒・教員による保育・幼児教育施設、小・中学校との交流を年度2回以上実施				
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	地域と共にある学校づくりの推進	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施	保育・幼児教育施設、地域行事での生徒によるボランティア活動を年度5回以上実施				
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめアンケートの年度2回実施と、確認されたいじめ全事象の早期解消	いじめアンケートの確実な実施と、確認されたいじめ全事象の早期解消				
	特別支援教育推進委員会による支援の推進	対象となる生徒の状況についての全教職員による共通理解の場を年度5回実施 スクールカウンセラーや外部機関との連携により具体的支援の検討と生徒・保護者への支援・助言の提供	年度当初、および学期の中間・学期末に全教職員による生徒情報についての共有の機会を設け、その対応・支援のあり方について確認を行う。また必要に応じて支援計画をはじめとした個々の生徒の情報をもとに、関係職員やスクールカウンセラー・外部期間とが連携し、具体的な支援、助言ができる体制を確立させる。				
多文化共生教育の推進	外国人生徒が在籍する専攻科と高校の合同授業や学校行事を学期に1回は実施	入学式・卒業式等の学校行事にともに参加するとともに体育大会・文化祭などの学校行事でも時間と場所を共有できるようにする。また、福祉関連の授業にあっては可能な限りの合同授業を行いその交流をはかる。					

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--